

テーマ 「学校組織マネジメントによる元気な学校づくり～学校評価の活用を通して～」

鳥取県立倉吉養護学校

1 本校の概要

本校は、倉吉市にある唯一の特別支援学校で、小学部・中学部・高等部を設置し、一貫した教育を行える学校です。また、知的障がい部門と肢体不自由教育部門があり、複数の障がい種に対応できる学校です。「子どもたちが 持ち味を活かし 輝く 元気な学校」をめざす学校像に掲げ、117名の職員が一丸となって、教育実践に取り組んでいます。

2 テーマのねらい

学校評価に学校組織マネジメントの考えを取り入れることで、学校の活性化を図る。

3 取り組みの内容

(1) 学校教育目標の共有

組織として学校を運営するとき、「めざす学校像・めざす児童生徒像・めざす教師像」等を明確にし、全職員がそれを共有化する必要があります。本校では、4月初めの職員会で、学校経営の理念や経営方針を校長が自分の言葉で語り、思いを職員に伝える場を設け、共通理解を図っています。

(図1)

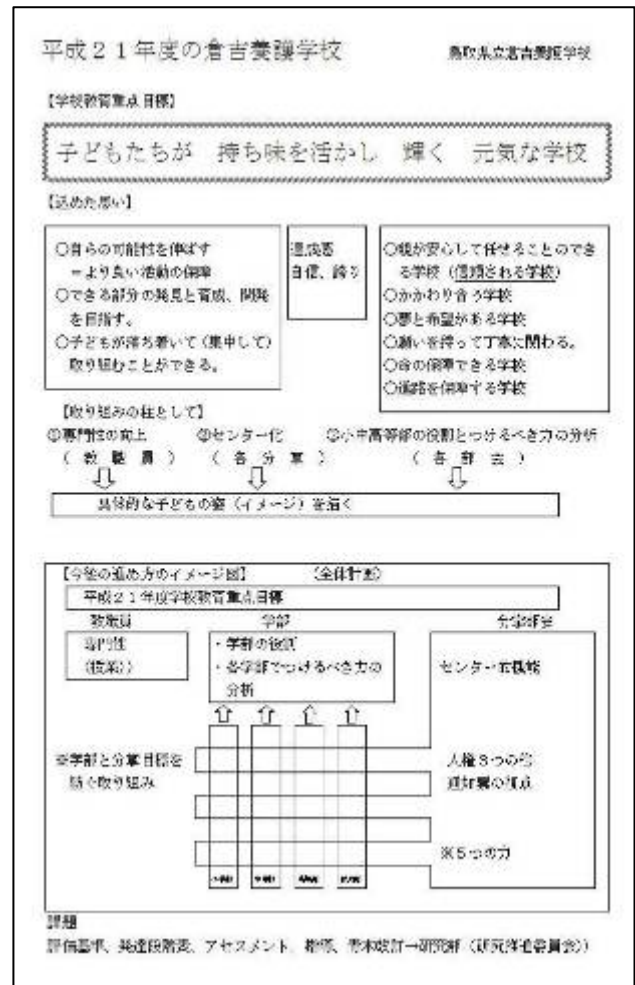


図1 平成21年度学校経営方針

平成21年度学校評価計画		平成21年度実施状況				
学校評価委員会	学校関係者評価委員会	面談	職員調査	保護者アンケート	全職員アンケート	第三者評価
○学校評価委員会設置 ○平成21年度「学校運営方針」「重点目標」の確認 ○PTA役員会・総会において「学校運営方針」「重点目標」の説明 ○「学校運営方針」「重点目標」に基づき、各分掌において 評価項目、具体的方策等を検討・決定						
○年間評価計画書の提出 ○5/29学校評価全体職員会⇒自己評価表提出 ○教育方針、重点目標、具体的取組等を学校のホームページを通じて公表 ○教育課題シート(定期的に実施)	○学校関係者評価委員会の決定		調査		第1回 概要説明 学校案内	
○第1回学校関係者評価報告書の作成	○6/17～18学校公開参観 ○6/17(水)第1回学校関係者評価委員会	一次面談				○第1回学校評価委員会・ ○第1回学校関係者評価委員会開催(合同)
○中間評価の実施 ○7/24全学校評価全体職員会(KJ法)				目標について		

図2 平成21年度学校評価計画

(2) 学校評価の流れの提示

学校評価にかかわる年間スケジュールを作成し、年間の流れがわかるようにしています。

(図2)

(3) 学校評価推進のための工夫

学校評価の中間評価は全職員で夏季休業中に行うことにしています。その際、小グループでのK J法を用いることにより、全員の意見や見方を大切にしています。(図3、図4)



図3 小グループでの討議



図4 全体の意見 (学校評価中間評価)

4 スーパーバイザーの役割

今年度は、兵庫教育大学の浅野良一教授をスーパーバイザーとしてお迎えし、年間通して3回ご指導をいただきました。

来校の時期は、立案の時期(5月)・中間評価が終わった時期(11月)、来年度へ向けてまとめの時期(3月)(図5)の3回で、どれもPDCAサイクルの節目の時に設定し、主に学校運営の中心となる管理職に対し、助言をいただきました。「自分たちでいろいろ考え取り組んでは来ているが、これでいいのだろうか?」という疑問や不安に対し、率直なご意見をいただくことで、運営側としても元気・勇気が出、次へのステップに意欲的に取り組むことができたように思います。そして、本校の状態を「組織」という視点から指摘いただけることも、ありがたく感じました。



図5 浅野先生による指導

5 まとめ

ありのままに何でも話し、聞いていただけるスーパーバイザーであり、大変心強い一年間でした。助言をすぐに試して、報告し、いただいた評価をさらに次に活かしていく。弾む気持ちで一年が終わってしまいました。

助言いただいたステップと注意点

学校全体の活性化のための4つのステップ

1. トップの戦略的揺さぶり
2. ミドルの突出
3. 後続集団の発生
4. 新しいビジョンレベルへの移行

3つの注意点

1. カスタマーフォーカス(子どもに近いところで評価)
2. アカウンタビリティ(数字で約束)
3. ローコストオペレーション(手間をかけない方案)

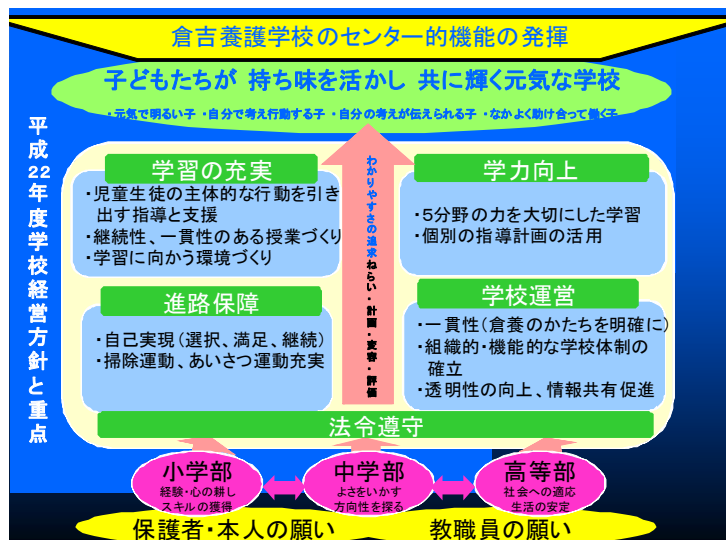


図6 平成22年度 学校経営方針

平成22年度は、「わかりやすさの追求」(図6)を掲げ学校活性化のための4つのステップや3つの注意点を大切に、さらなる学校の活性化を実現していきたいと決意を新たにしています。